

## アンケート結果を受けて改善したいところ 【人文社会学系】

授業の難易度が「難しい」と回答した学生が41.9%、「ちょうどいい」が58.1%、一回当たりで扱われる授業内容の量が「ちょうどいい」45.2%、「多い」が48.4%、「多すぎる」3.2%であった。学生が主体的に取り組める授業を心がけていることが、約半分の学生にとって負担となっていることが分かった。

今後は、少し、量を減らして、また、難易度も低くして授業をすることを心がけたいと思った。

- ・少数ではあるが、内容が難しいと回答している学生さんや、授業内容の量が多いと回答している学生さんもいたことから、1時間で取り扱う内容については、引き続き吟味し、精選していきたい。
- ・一方で、この授業のための週当たりの学習時間が1時間未満、なし合わせて70%だったことを踏まえ、次年度以降は家庭での学習課題を提示するなど、授業外でもさらに発展的学習が進められるよう工夫していきたい。

- ・資料や教材の提示の仕方がよくなかったという回答が1名ではあるがいたため、次回からはわかりやすい資料になるよう工夫するとともに、内容についてももう少しコミュニケーションをとれる方法を模索していきたい。
- ・授業で取り扱う内容については多すぎるという回答が目立ったため、今後はもう少し吟味して内容を削減していきたい。

特になし。

アンケートの結果からみて、授業の目標はある程度達成されたと思う。  
授業の性格上、抽象的な議論になりやすいので、現実の教育問題との関連を意識した授業内容にしていきたい。

このままでいいと思っている。

授業の内容に関わる問8・9・10・11で3分の2以上の肯定的な評価を得ているので、基本的に現行の授業のやり方で良いと判断している。

国文学演習AⅡでは、難しいという評価が多かったため、指導の仕方や課題について再考し、今後に生かしていきたい。

全く基礎知識がないことを教えるため、講義形式とした。おおむね授業をよく聞いてくれたが、なかにはまったく関心を示さず中には注意しても内職をしている学生が数人いた。記名式ではないので確証はないが、アンケートに否定的な学生はそのような学生だと考えるが、どのように接したらよいか、対応策を検討中である。

①～②のプラス回答が、問1では全体の96.3%、問5では70.0%、問6では73.3%、問7では66.7%、問12では76.7%を占めたことから、日本の民俗文化理解という所期の目標はほぼ達せられたととらえている。しかし、問2・問11において、③～⑤のマイナス回答が、問2では53.4%、問11では62.76%を占めた。また、問9の説明のわかりやすさを問うプラス回答は80%であったが、問13では、53.4%が難しい、難しすぎると回答した。問2、問11、問13には特に改善点があると受け止めた。授業の双方向性を強化して、コミュニケーションをとおしてわからない点を明確にあぶり出すようにし、課題に対して自らが問題点を見出し、アプローチし、発言する・行動するということが達成できるように、今後、さらに留意して授業を構築したい。

ほぼ全体的に①～②のプラス回答が、80%を超えたことから、日本民俗学の手法により地方史研究を試みるという所期の目標はほぼ達せられたととらえている。しかし、問8(教員の話し方は聞き取りやすいか)において、③～⑤のマイナス回答が、50.0%を占めたことに、改善点があると受け止めた。話し方に留意して授業を進めるようにする。

授業によっては、授業外の学習時間が短いものがあった。もう少し、授業での学習活動で得た認識や知識を定着させたり、深めたりする動機づけを工夫したい。

演習の授業で、授業難易度に「難しい」と答える学生が4割ほどいたため、もう少し難易度を落とした授業にすべきかもしれない。

授業の難易度に「難しい」と答える学生が4割ほどいたため、もう少し難易度を落とした授業にすべきかもしれない。

教員側はできるだけ学生と遣り取りしながら技術を伝えているつもりであるが、学生の中にはその中に入っていけないと感じている者もいたようである。その点には、さらに目配りするようにしていきたい。

学生同士で学び合う形は理想であるし、そうした側面を強めるようにもしたいが、学生にとって殆ど未知のテーマについて学んでもらうためには、まず講義を聞いてもらうことが大前提になることも事実である。教員の講義が中心になる形は維持しつつ、どのように学生の主体性や協同性を深め(得)るのか、常に模索しつづけている。

書論購読では、授業内容の難易度や、授業内容の量、進度などに検討課題が見られるため、それらについては、来年度に向けて見直していきたい。

問11の教員とのコミュニケーションに関して、うまく取れていないと考える学生が半数以上いるので、授業中に質問時間を多くしたり、オフィスアワーの活用を考えたい。

問1から問8までは、「強くそう思う」と「ややそう思う」を合わせて8割を占めているが、問7については6割強となっているので、授業目標がより意識されるような方向で改善したい。また、授業が「難しい」と「難しすぎる」6割を超え、授業内容の量も「多い」と「多すぎる」を合わせて3割を超えているが、学習時間3時間以上18%、2～3時間が14%と少ないことを考えると、内容の難しさおよび多さに見合っただけの学習を行っていないことが懸念される。まずはオフィスアワーの活用をさらに促したい。

・外国史概説Ⅰの授業では、全体の流れが分かりにくいという声があり、また学生とのコミュニケーションに低い結果が出ている。多人数の授業であり、しかも時間的な限定がきわめて厳しい授業であるため、改善は困難であるが、授業で取り上げる内容をもう少し減らし、問いかけや考察を入れる余地がないかどうか考えたい。

・東洋史特論Ⅰの授業では、専門性が高かったためか、やや理解度に難がみられた。ミニ・レポートや討論の機会を設けることができれば実施してみたい。

授業の難易度や授業内容の量が「ちょうどいい」という意見が多かったが、力をつけるという意味では、物足りないのではないかと思います。そのため、もう少し難易度を上げ量を増やすことが必要と思いますが、その分、こちらの添削にさらに時間がかかるのが悩ましいところです。

15回の授業を通して、学生は意欲的にディベートなどの課題に取り組み、それぞれに日本の公法分野が抱える課題を発見した様子だった。ただし、この授業に割り当てられた学習時間(問15)に関するアンケート結果の最大多数は、「1時間未満」と思いのほか少なかったのは、授業担当者が意図したところとは異なっていた。これには、近年のネット環境の利便性の向上も影響していると考えられるが、もう少し図書などでじっくり問題に向き合うような学習スタイルが身に付くよう授業を工夫する余地があると感じた。

話し方について厳しい意見があったので、今後気をつけたい。

授業目標と評価観点のさらなる明確化によって、学生がもっと意欲的に取組めるようにしたい。

(2)で書いた通り、特にない。引き続き、今のレベルを維持していきたい。ただ、理解度の低い学生もいるため、そのケアには常に注目していきたい。

学生個人や集団がどのような知識や経験等をもっているかをしっかり把握すると、より学生のニーズにあった授業が構成できると思う。そのため、学生との交流の機会を増やす努力をしている。授業期間中は、授業に関するメールのやりとりも、学生との信頼関係を構築できるように努め、随時、授業改善に努めているが、これをさらに充実したい。

2413631心理アセスメント講義:ちょうど良いようなのでこのまま続けたい。  
2413681心理教育統計学実習:SPSSという統計ソフトの使い方と結果の書き方という授業名なので、知識や技能の習得については評価が良かったが、その他の点ではあまり評価が高くなかった。わかりやすく説明できるようにしたい。

発表の方法や準備のしかたについては、受講生により分かりやすく伝えられるよう努めたい。  
また発表後の質疑応答のやり方についても、発表者と質問者だけのやりとりに終わらせず、クラス全体の議論に発展させられるよう、考えていきたい。

学生による発表を中心とした学習の場合、学生の修得度が講義の場合と比べて低いと感じる。主体的な学習が必ずしも学生のためにはならないと思うので、今後は実施について検討していきたい。

次年度の授業では、学習目標の確認をより丁寧に行いたい。

演習では受講者が少なければ資料の扱い方から教えたいが、現実的には無理だろう。  
高校までに身につけている読解力に個人差がありすぎるため、習熟度別に対応したいが方策が見当たらない。

比較的良い結果が出たと考えているが、指示の出し方などもう少し明確にしていきたいと感じる場面もあった。  
演習の授業ということを考えると、個々の学生についてどのように成長を促すことができるかという点に課題を感じる。

パワーポイントの資料など、急ごしらえになってしまったものもあり、正しく指摘されていた部分もあった。  
それだけ、注意を払って受講してくれていたことがありがたい。次の機会には改善できるようにしたい。  
ただ、書道史の知識が少ない学生に対して「ちょうどいい」内容の授業は大学の授業としてはどうなのかと自ら疑問に思う。大学である以上、お膳立てがなくとも、自ら興味を持ち、調べ深める行為に励んでもらいたい。ただ難易度を上げるのではなく、より深く考えさせるような授業を構想したいと考える。

複数年にわたって担当しているが、年々受講者が増加しており教室がかなり狭めになっているので、教室を変更するなどの措置を大学と相談し、個々の学生と議論する時間や環境などを確保したい。

聴覚障がいをもつ学生が受講していたため、できるだけ大きな声でゆっくりとわかりやすく授業を進めることを心掛けた。また、口頭のみでの説明を可能な限り排し、板書やレジュメといった視覚情報によって授業内容が把握できるように努めた。それによって学生が、「話し方が聞き取りやすい」「説明や教材・教具がわかりやすい」という評価を行ったものであろう。ただし、図書館ツアーや学生の発表が主となる後半の演習においては、じゅうぶんなサポートを行うことができなかった。学生が発表慣れしていなかったため、早口になってしまったり、レジュメの不備を口頭で修正したり、という事態も発生した。アンケート当日に当該学生が欠席したため、本人の意見を反映することができない点が心残りである。  
本授業を通して、ユニバーサルデザインを意識した授業構成・展開を心がけることの必要性を強く感じたので、それを続けてゆきたい。

概説、演習とも約70%が分かりやすい授業との評価をしており、満足度が高い。概説では平均点が77点もあり、理解度も大変高い。ちなみに、例年の平均点は60点台である。  
演習では某講義もこのようなやり方でしてほしいとの自由記述もあった。  
以上から、特に改善するところはなくこのままのやり方を続けていきたい。

問8「教員の話し方は聴き取りやすい」や、問9「教員の説明はわかりやすい」については高評価であったので、このまましていきたいと考えている。また、問13「授業の難易度」や問14「一回当たりで扱われる授業内容の量」についても、「ちょうどいい」という回答が多かったため、このまましていきたいと考えている。  
その一方で、問3「自ら関連項目について情報を集め検討し～」や問4「学生どうして授業内容を深めあった」については、「どちらともいえない」や「あまりそう思わない」という消極的な意見が多かった。授業後の学生の自主学習をどう促していくかを今後の課題としたい。

60人を越える講義で、授業のための週当たりの学習時間が「1時間未満」あるいは「なし」とする学生が多くを占めてしまったので、自宅での課題を与えるなど改善したい。

授業のための学習時間が少ないため、宿題を出して学びを深めさせたい。

まずアンケートを行う際の不手際から、回答数が少ないことを前提として結果を見なければならぬが、講義の難易度と極端な学習時間の差異等を踏まえ、次年度以降は内容構成と課題の提示方法等を含めて改善を図っていきたい。